

第48回 国家試験 専門基礎分野（臨床医学） 出題傾向と対策の要点

病理学		合計	48	47
感染症(2)	ウイルス感染症	1	1	
	感染症	1		1
薬理学(2)	薬物療法	1		1
	ポツリヌス毒を用いた治療の効果	1		1
各種疾患の病理学的変化	炎症、脱髄、感染、出血、虚血	1	1	
重症筋無力症	重症筋無力症を合併する腫瘍	1	1	
くる病	くる病の症状	1	1	
アレルギー	I型アレルギー	1	1	
炎症	急性炎症	1		1
多発性骨髄腫	多発性骨髄腫の特徴	1		1
心筋梗塞	右冠動脈の閉塞による虚血部位	1		1
加齢	高齢者に見られる加齢に伴う変化	1		1
合計		12	5	7

- ①1年当たりの出題数
15年間の平均は5.6問(4~7問)の出題である。昨年は7問でやや多かったが、本年は平均の5問であった。
- ②第48回国家試験の出題傾向の変化
例年出題される「腫瘍の概論」が昨年・本年と連続で出題されておらず、逆に各論である「臨床疾患の病理」の問題が増えている。
「重症筋無力症を合併する腫瘍」に関する問題は、腫瘍の特徴ではなく、重症筋無力症の原因疾患としての腫瘍を問うているが、一般的に学習する内容ではないので、受験生にとっては難問であったと思われる。
昨年の特徴であった「薬理」に関する問題が本年は1問も出題されなかった。
基本的な「ウイルス感染」「炎症・脱髄などの病理変化」の問題は一昨年以前の内容に類似している。
またアレルギーに関する問題も過去の問題を理解していれば解ける内容であった。
- ③最近の出題傾向の変化
近年、病理概論(炎症、変性、腫脹など)が減少傾向にあり、臨床病理(疾患に関する病理)の問題が増えている。
疾患の病理的特徴を知っておく必要がある。
- ④対策の要点
臨床病理を中心に学習しよう。

内科学・小児科学		合計	48	47	
循環器疾患(7)	深部静脈血栓症	原因	1	1	
		予防法	1	1	
	薬理	ワルファリン作用の減弱薬品	1	1	
	種々の心疾患	突然死を招く疾患	1	1	
	脈管疾患	関連因子	1	1	
	心不全	左心不全	1		1
呼吸器疾患(5)	呼吸循環障害	運動負荷	1	1	
	慢性閉塞性肺疾患	特徴	1	1	
		呼吸性アシドーシス	1	1	
	種々の異常呼吸	肺気腫	1		1
肺線維症、気管支拡張症、気管支喘息、過換気症候群、CO2ナルコーシ		1		1	
消化器疾患(2)	絞扼性イレウス	特徴	1	1	
	急性膵炎	特徴	1	1	
代謝性疾患(2)	糖尿病(2)	糖尿病の眼病変	1		1
		低血糖症状	1		1
薬理	種々の疾患に対する治療薬		1	1	
老年症候群	特徴		2	2	
感染症	ウイルス、細菌、疥癬、ニューモシステス・カリニ		1	1	
脳性麻痺	分類の特徴		1	1	
NICU	ハンドリング	リスク管理	1		1
合計			22	13	9

- ①1年当たりの出題数
15年間の平均は6.1問(4~8問)であり、昨年は9問で平均より多かったが、さらに本年は13問と出題が多かった。
- ②第48回国家試験の出題傾向の変化
出題傾向も例年通りで、「循環器疾患」が4問、「呼吸器疾患」3問、「消化器疾患」2問、「老年期疾患」2問の出題であった。
特徴的な点は、内科疾患に対する治療法としての薬理が出題されたことである。
PTOTの養成校内での薬理講義はあまり重要視されておらず、学生も薬理に関して学習していないことが多い。
昨年出題されていた「代謝性疾患」の出題が無かった。
小児科に関しては「脳性麻痺の分類」が出題されたが、難易度はそれほど高くなかった。
- ③最近の出題傾向の変化
近年の出題傾向に変化はない。
「心不全」「閉塞性・拘束性換気障害」「薬理」はここ2~3年出題される傾向にある。
- ④対策の要点
上述の分野に関しては必ず学習しよう。

整形外科		合計	48	47	
骨関節障害(5)	腰部椎間板ヘルニア(2)	腰部MRI所見	1	1	
		特徴	1	1	
	骨折(2)	骨折時の血流障害	1	1	
		小児骨折の特徴	2	1	1
	腰部脊柱管狭窄症	特徴	1	1	
	変形性膝関節症	特徴	1	1	
	骨端症	発生部位	1	1	
末梢神経障害(2)	関節リウマチ	特徴	1	1	
	膝関節前十字靭帯損傷	整形外科検査法	1	1	
	絞扼性神経障害	末梢神経と絞扼部位	1	1	
	尺骨神経麻痺	徴候	1	1	
肩手症候群	特徴		1	1	
切断	下肢切断の特徴		1	1	
熱傷	特徴		1	1	
合計			15	9	6

- ①1年当たりの出題数
例年の平均は9.4問(8~12問)である。
昨年は6問でやや少なく、本年は9問の出題で例年並みであった。
- ②第48回国家試験の出題傾向の変化
出題されている分野は「腰部脊柱管狭窄症」「変形性膝関節症」「椎間板ヘルニア」「末梢神経障害」「肩手症候群」「骨端症」「小児骨折」「切断」「熱傷」「絞扼性神経障害」などであり、毎年の定番の問題が出題されていて比較的難易度は低かった。
- ③最近の出題傾向の変化
出題傾向も出題数も平均的で難易度も比較的良かった。
- ④対策の要点
過去問題の「骨関節障害」「末梢神経障害」の範囲を徹底的に復習しておくことで十分と思われる。

臨床神経学		合計	48	47
脳血管障害(4)	心原性脳塞栓症	原因	1	1
	頭部画像	頭部CT所見	1	1
	運動性失語	検査	1	1
	脳卒中治療ガイドライン	2003の推奨グレード	1	1
筋ジストロフィー(2)	Duchenne型	機能障害度分類	1	1
		特徴	1	1
多発性硬化症(2)	特徴(2)		2	2
Gerstmann症候群	病巣		1	1

- ①1年当たりの出題数
近年、徐々に出題数が減っており、過去15年の平均7.9問(6~11問)であるが、昨年は7問、本年は6問の出題で、やや減少傾向にある。
- ②第48回国家試験の出題傾向の変化
昨年は新出問題として「脳卒中治療ガイドライン」「失語症検査」「頭部CT画像」が出題されていて、過去問題だけの学習では難しかったと思われる。
本年のみでみると「脳血管障害」「多発性硬化症」が全く出題されていない。
また昨年と本年は「パーキンソン病」に関する問題も全く出題されていない。
- ③最近の出題傾向の変化
本年は「脳血管障害」に関して出題されていないが、過去15年間でみると「脳血管障害」の問題が最も多い。

重症筋無力症	特徴	1	1	
神経筋疾患	感覚障害を合併する疾患	1	1	
嚥下	支配神経	1	1	
治療法	ボツリヌス毒素	1	1	
	特徴	1	1	
	合計	13	6	7

来年にはやはり「脳血管障害」が出題されると予想する。
また「パーキンソン病」「多発性硬化症」も本年は出題されていないが、例年、出題されているので、これも学習する必要がある。
本年出題されている「ボツリヌス毒素」「ゲルストマン(Gerstmann)症候群」「感覚障害」「嚥下障害」「デュシェンヌ(Duchenne)型筋ジストロフィーの機能障害度分類」の問題は全て過去に出題されている内容をしっかりと理解していればわかる問題であり、難易度としてはそれほど高くない。
④対策の要点
本年は出題されていないが、過去の出題数は最も多い「脳血管障害」について、しっかりと学習しておくべきである。

臨床心理学		合計	48	47
臨床心理学検査(5)	心理検査	P-Fスタディ	1	1
		TEG(交流分析)	1	1
	知能検査	運動性失語があっても評価可能な心理検査	1	1
		構成課題を含む検査	1	1
		投影法検査	1	1
心理療法(2)	心理療法(精神療法)の技法	1	1	
転換性症状	系統的脱感作法を用いる心理療法	1	1	
Erikson	葛藤	1	1	
転移・逆転移	発達段階と獲得すべき課題	1	1	
面接	転移・逆転移の特徴	2	1	
防衛機制	傾聴的態度	1	1	
記憶	反動形成、合理化、投射、昇華、退行	1	1	
	課題遂行するための記憶	1	1	
	合計	14	7	7

①1年当たりの出題数
15年間の平均は7.8問(7~8問)の出題であるが、本年も昨年も7問で、例年通りである。
②第48回国家試験の出題傾向の変化
例年と同様で「心理検査」の出題が最も多い。
「P-Fスタディ」「TEG(交流分析)」「知能検査」は定番の問題である。
その他「心理療法」「転移・逆転移」なども定番問題がそのまま出題されている。
③最近の出題傾向の変化
傾向にほとんど変化がない。
例年通りの問題の範囲をしっかりと学習すればよい。
④対策の要点
過去問題の定番問題を中心にしっかりと学習しておこう。

精神医学		合計	48	47	
統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害(4)	統合失調症(4)	症状	2	1	
		薬物副作用(悪性症候群)	1	1	
		成因関連因子	1	1	
		薬物療法で改善可能な症状	1	1	
(症状性を含む)器質性精神障害(4)	認知症(2)	認知症の病変部位	1	1	
		前頭側頭型認知症(Pick病)の症状	1	1	
	てんかん(2)	知的障害を伴うてんかん	1	1	
神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(3)	広場恐怖症	雑踏の中の強い不安	1	1	
		神経性無食欲症	特徴	1	1
		PTSD(外傷性ストレス障害)	症状	1	1
気分(感情)障害(2)	うつ病	特徴	1	1	
		訴え	1	1	
振戦せん妄	(虫や小動物の)幻視	1	1		
薬物療法	悪性症候群	原因薬物	1	1	
精神作用物質使用による精神および行動の障害	依存症	アルコール依存症	1	1	
パーソナリティ障害	境界性パーソナリティ障害	見捨てられ不安	1	1	
心理発達の障害	広汎性発達障害	症状	1	1	
小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	小児の精神障害	小児の精神障害	1	1	
自殺	我が国の自殺	動向や対策	1	1	
	合計	21	10	11	

①1年当たりの出題数
過去15年間の平均は9.9問(ほぼ10問)である
本年も例年通り10問出題された。
②第48回国家試験の出題傾向の変化
問題の内容は「統合失調症」「器質性精神障害(認知症・てんかん)」「気分(感情)障害」「神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害」「振戦せん妄」「パーソナリティ障害」など定番の問題であった。
近年出題傾向にあった「薬物療法」が本年は出題されなかったのが特徴と思われる。
③最近の出題傾向の変化
昨年と同じ問題は出題はされていないが、出題傾向に変化はない。
④対策の要点
過去問題の範囲をしっかりと理解しておけば問題ない。

リハビリテーション医学		合計	48	47
国際機能分類(ICF)	活動	1	1	
バリアフリー新法	移動の円滑化	1	1	
廃用症候群	長期臥床による不動化の影響	1	1	
クリニカルパス		1	1	
ユニバーサルデザイン		1	1	
	合計	5	2	3

①1年当たりの出題数
過去15年間の平均が4.1問(1~8問)であり、年度により問題数が異なる。
本年の場合は2問とやや少なめであった。
②第48回国家試験の出題傾向の変化
「国際機能分類(ICF)」は定番の問題である。
「バリアフリー新法」は初めての出題で、学習していなかった学生にとっては難しかったと思われる。
③最近の出題傾向の変化
過去15年間の問題の中からくり返し出題されている傾向がある。
④対策の要点
出題数はあまり多くはないが、過去10年分をしっかりと学習しておけば十分に解ける問題である。

総合計	102	52	50
------------	------------	-----------	-----------